

大野高校検討部会報告

1 日 時

平成21年10月14日(水) 14:00～16:00

2 場 所

大野高校 応接室

3 出席者

中出良一(陽明中学校長)、加藤敏治((株)加藤製缶 代表取締役社長)、青木吉弘(大野高校全日制PTA会長)、八田吉弘(開成中学校PTA会長)

大野高校：西川校長、竹沢定時制教頭、兼井教務主任

県高校教育課：古谷参事、吉田指導主事、谷主任

4 内 容

(1) 大野高校の現状と課題について

- ・OBとしては、大野の子は大野高校で学んでほしい。部活動をやりたいからと福井でアパートを借りている子がいるが、保護者の経済的負担が大きい。
- ・成績上の分析では、勝山高校の方が少し上と中学生は感じているようだが、勉強したいと勝山高校を目指す生徒は今のところいない。
- ・難関大学を目指す特進クラスや、就職などを考えるコースを作れないか。
- ・特進クラスの設置については、特進クラスに入って意気揚々としている生徒と、やっと大野高校に入れた生徒との学力差が問題だが、特進を3クラス作ることは冒険かもしれない。
- ・大野高校には様々な学力層が存在するのだから、難しいことを学びたい子と基礎基本を身に付けたい子のどちらにも良い教育体制が必要ではないか。

(2) 奥越地区の再編整備について

- ・大野高校と勝山高校のクラス数がどちらも5クラスと同じなのは大野市民としては疑問に感じる。
- ・生徒数減に伴い、平成23年度の5クラスだけでなく、平成22年度でさえ5クラスになりかねない状況である。

(3) 定時制課程の見直しについて

- ・大高定時制に魅力を感じる。特別支援教室にいた子が何人もお世話になっているが、定時制進学後、アルバイト先でにこやかにしている姿を見るとうれしく思う。
- ・ここ数年、登録している事業主8社で雇用されている生徒はいない。アルバイト(レジうち等)は午後からの仕事なので、二部にする必要がなくなった。
- ・二学期制にすることによって、半期での単位や、後期から編入生を受け入れることが可能になる。

(4) その他の意見

- ・改革には賛成だが、先生の数を減らさないようお願いしたい。
- ・福井県内各高校の定員数をできるだけ均等にしてほしい。生徒数や教員数で活力差が生まれる。例えばPTA活動にしても、生徒数が多い高校は財政も人材も潤っている。
- ・スポーツ推薦の見直しについて考えてほしい。例えばソフトボールは単独でチームが作れていない状況である。推薦でとるからには、チームが構成できる見通しを持ってとるべき。

勝山高校検討部会報告

1 日 時

平成21年10月23日（金）10:00～12:00

2 場 所

勝山高校 応接室

3 出席者

島田さよ子（勝山北部中学校長）、荒井由泰（ケイテナー(株)社長・元同窓会長）、
平沢浩一郎（勝山高校PTA会長）、安田剛志（勝山南部中学校PTA会長）
勝山高校：中川校長、村中教頭、清川教務主任
県高校教育課：古谷参事、油谷主任、平松主任

4 内 容

(1) 現状説明

- ① 平成19、20年度の進学実績とその取組み、部活動実績について説明を行った。
- ② 「情報コース」について、これまでの議論のまとめや勝山高校での共通理解の事柄を説明した。
- ③ 「情報コース」のメリット・デメリットや県教委からの回答、将来の見通しを説明した。

(2) 協 議

- ・ 最初、「情報コース」はどういう生徒の受け皿になるのか（進学する生徒か、就職する生徒か）ということについて話し合いがなされた。
- ・ その中で、総合産業高校の奥越地区の職業系学校としての果たす役割を確認し、就職する生徒の受け皿については、総合産業高校であるという認識で一致した。
- ・ さらに、勝山高校の教員数の減少や福井市内への生徒の流出を考慮して、勝山高校が進学と就職の両方に対応することができない現状や地元の進学を支える普通科高校を目指していることを訴え、理解が得られた。
- ・ 次に、メリットとデメリットをよく理解した上で、デメリットを減らす方向へと議論が進んだ。その中で、「情報コース」は決定事項ではなく、修正可能であるということが確認された。
- ・ その中で、進学を目指すのであれば、「情報コース」ではなくて「理数コース（仮称）」の方がよいという意見が出され、それについての賛成意見が多数出された。
- ・ 最後に、「『情報コース』を『理数コース（仮称）』に変更して、それに相応しい位置付けやカリキュラムを作成することとし、学習活動に情報の内容も取り入れることとする。ただし、1年次は特別なコース設定は行わず、2年次からのコース分けとする。」という一致した結論を得た。

新高校検討部会報告

1 日時

平成21年10月 7日(水) 15:45～17:40
10月23日(金) 15:00～18:00
11月11日(水) 18:00～19:30

2 場所

大野東高校 応接室

3 出席者

笠羽忠恭(勝山中部中学校長)、北川経治(北川工務店専務)、岡田高大(大野東高校同窓会長)、福田耕治(勝山南高校同窓会副会長)、金子正義(大野東高校PTA会長)、山岸登志高(勝山中部中学校PTA会長)

大野東高校: 渡辺校長、坂田教頭、立平教務主任

勝山南高校: 塚田校長、西川教頭、浜田教務主任

県高校教育課: 小和田課長、古谷参事、折井指導主事、谷主任

4 内容

(1) 学科編成について

- ①5クラスと設定されているが、はじめからクラス数を限定しないで奥越全体で何の学科が必要なのかを考えてから設定できないか。さらに中学生や保護者が行きたい学校、入って良かったと思える学校にしたい。
- ②既存の学科にこだわることなく県のモデルとなる新産業高校にふさわしいもの、また奥越地域の特性等を考慮し、たとえば農業(バイオマス)関係のコースを考えても良いのではないか。
- ③奥越には多くの建設関係業者がおり、建設の仕事も多い。この地域性を考えるのなら建設科をなくすのはおかしいのではないか。基幹産業を支える若者の育成を望みたい。何らかの形で建設を残せないか。クラス数の問題があるのなら例えば機械科に建設コースを残せないか。
- ④工業という大枠で募集し、入学後、電気、機械、土木等のコースに分けてはどうかという意見もあった。全国に先例のある総合学科の考え方は、そういう考え方だが、うまくいっていないのが現状であり、専門性を軸にすべきだという意見が多かった。
- ⑤情報学科の中に商業系のものと工業系のものをコースとして設定出来ないのかという意見もあったが、学科の特性上、無理という結論になった。ただし、情報というネーミングが中学生・保護者を惹きつけている。生徒が希望しない学科ではどうしようもない。情報ビジネス等、ネーミングを考えた方が良いという意見が多かった。
- ⑥奥越の生徒数が減少を続けるのは事実であり、平成23年度には15クラス分と想定される。これ以上増やすと、いずれかの学校の定員が埋まらない事態が生じる。
- ⑦福井への生徒の流出に関しては、無償化という政治の流れで変化するのではないか。

専門部会報告書

- ⑧建設を残し、家庭と福祉を一クラスにという意見もあったが、建設科を仮に残し、商業科等を残さず、工業系統ばかり設定すると、奥越の女生徒の行き場がなくなるという意見が多かった。

(2) カリキュラムについて

- ①食文化コースの、調理師を目指す学科から被服を取り入れる方向への変化は、勝山南高校の生徒の動向に一致している。勝山の繊維産業、被服を取り入れることで定員が満たせるようになった経緯から考えれば妥当である。

(3) 総合選択制について

- ①総合産業高校のメリットは、例えば電気科にいても福祉の学習が出来ることである。
- ②総合選択の中に「建設」の「測量」という科目を設定して全科から選択できるようにすることで、建設を学びたい生徒、学ばせたい保護者の要望に応える。

◇まとめ

- ・ 学科編成については原案どおりとする。
- ・ 「建設」については、総合選択制の中で残し、建設関係の科目を履修可能とする。
- ・ 食文化コースについては、調理師養成課程は設置せず、被服や保育なども含め、生徒の興味・関心に応じた科目を履修できるコースとする。
- ・ 学校の施設、設備等については、子どもたちが安全・安心に学習できる環境づくり、産業社会の進展に伴う教育内容の多様化への対応、地域の学校として親しみのある学校づくりを念頭に進め、教育環境の充実に努めてほしい。